

県民の笑顔をつくることを目指して

和歌山県知事

岸本 周平



(はじめに)

早いもので知事に就任してから、もう半年あまりが経ちました。この間、県庁内外で多くの県民とお会いし、様々なお話を聞かせていただいています。本巻頭言への寄稿にあたり、改めて、知事としての重責を果たしていかなければならないと誓ったところです。

(前例を作るのが県庁の仕事)

和歌山県は課題先進県のトップランナーです。人口減少、高齢化、産業の空洞化、経済成長力の鈍化など、日本全体が抱える課題の宝庫です。こうした課題が少しでも解決の方向に進むように、毎日職員の皆さんと一緒に勉強しながら、「実験の精神」で仕事をしています。トップランナーであるわけですから、教科書も参考書もありません。新しいやり方を試して、トライアル&エラーで挑戦していくしかありません。

私が以前、働いていたトヨタ自動車では、毎日、改善運動が行われ、車の作り方や販売方法を変えていきます。ただし、よく失敗します。改善はそんなに簡単なものではありませんから。それでも、失敗した時に、上司は部下をしかりません。「ナイストライ！また、やり直そう。」で済ませます。県庁の中では、「前例がありません。」という言葉は禁句にしました。私たちの仕事は前例を作ることですので、

私からは、「職員の皆さんは失敗を恐れずに、新しいことに挑戦をしてほしい。」というメッセージを伝えています。そして、PDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）サイクルを回して、結果を評価し、失敗したらその原因を調べ、次の挑戦に生かしていきます。挑戦するから失敗もできるのです。

(財政危機警報を発出)

仕事を進めるにあたっては、気持ちは前向きに、そして笑顔で、と職員にはお願いしているのですが、そうは言っても、現実の厳しさから逃げるわけには行きません。特に、課題の宝庫という困難な状況に輪をかけているのが、県財政の状況が非常に厳しいという現実です。

実は、2023年度の予算案を作る際に、財政当局に10年間の推計をお願いしました。私は、財務省で働いていたころ、3分の2は財政畑で、3分の1は国際畑で仕事をしていました。これまでの県の財政の見通しは5年間でしたが、物価や金利の上昇、高齢化による社会保障費の増加などを踏まえ、新たに10年先まで計算し直しました。財政のプロの目で見直すためです。

その結果、県の貯金とも言える基金は25年度にはマイナスになり、10年後の公債費の負担は2倍近くにふくれ上がることがわかりまし

た。金利がさらに1%上がれば、それだけで33億円の増加になります。これまでの県の借金が根雪のようになっており、将来の負担が増えるためです。

そのため、今回「財政危機警報」を出し、23年度予算案は「財政見直し元年」予算と位置付けました。今はまだ「警報」の段階とは言え、昨年度に出た剰余金を使って公債費にあてるための臨時の基金をつくとともに、予算のやりくりを行い、県民の皆さんに安心してもらえる財政運営につとめます。

私の尊敬する政治家で江戸時代末期の備中松山藩の山田方谷は「歳出カットや増税で財政再建はできない。」と教えています。いたずらに予算をカットするのではなく、コストパフォーマンスの悪い事業を見直したり、公共事業もできる限り県の負担が少なくなる「国土強靱(きょうじん)化」予算に振りかえるなど、賢いやりくりをしています。

(県庁の常識は世間の非常識)

以上のような財政再建も含めた様々な課題は、一朝一夕には解決されるものではありませんが、まずは、県庁の仕事の進め方を大いに変えたいと思っています。

知事に就任して毎日、びっくりすることが続きました。それは、和歌山県庁の常識は世間の非常識ということです。もちろん、職員一人一人は真面目ですごく優秀ですが、県庁内で行われている業務の進め方、考え方は、世間の常識からすると、あまりにもかけ離れていると言わざるをえません。

こうしたことから、職員の皆さんには意識改革をお願いすると同時に、業務の改善提案を聞いたり、個人の趣味など人となりを知るために、若手の職員中心に10人程集まって、昼休みに「おにぎりミーティング (OMTG)」をやっています。皆さん、持ち寄りで食事をしながら、フランクにいろんな話をしてくれるので参考になることばかりです。

私は、県庁では多様な人材、多様な働き方

を求めて、年齢や性別にとらわれない自由な職場をつくっていきます。職員の皆さんには上司の顔をうかがうのではなく、県民の皆さんの方に顔を向けてくれるようお願いしました。意見が違えば、知事の私に「これは違うと思う！」と堂々と言ってもらい、笑顔で協議していきます。

(タウンミーティング実施中)

私は、国会議員の時代から、現場に出向いて直接住民の声を聞くことを政治スタイルとしてきました。街頭演説も趣味のようなもので、ずっと続けてきましたが、知事になってからは中々難しいので、封印しています。

そこで、選挙の公約通り、地域住民の皆さんのお話を直接お聞きする「タウンミーティング」を、就任直後の1月から始めました。第1回目は田辺市秋津地区、第2回目は同市上芳養地区で、地域の防災活動、子ども会活動やジビエ料理の振興、地域おこし協力隊と地元の協力体制などについて有意義な意見交換ができました。このほか、有田川町やすさみ町などで、これまでに16回開催(5月末現在)しました。いずれも活気に満ちた地域でありましたが、郷土愛に溢れた住民がいらっしゃること、地域おこしがうまくいっている地域はUターン組と移住定住のIターンの皆さんとの関係が良いこと、が特徴であると思いました。

今後とも、機会を見つけて各地域での「タウンミーティング」を進めていきます。

(おわりに)

県庁の仕事は「県民を幸せにすること」だと思います。幸せと言っても、ひとそれぞれに何が幸せかは違います。しかし、人は幸せな時には笑顔になるでしょうから、県民の笑顔をつくるのが私たちの目的です。県民の皆さんの笑顔のために、県庁の職員と一緒に仲良く働いていきますので、どうかよろしくお願ひします。